

ダイバーシティセミナー

大学の未来を考える

知識と 支援の 共同創造

参加費
無料

近年、障害や病気の当事者がグループで経験を分かち合い、自身の困りごとを研究対象とする「当事者研究」が注目されています。

第15回全学FD／ダイバーシティセミナーⅣでは、研究の第一人者でご自身も脳性まひの当事者である、小児科医の熊谷晋一郎氏より“当事者が拓く新たな研究領域とそれによって生み出される新たな支援”についてご講演いただきます。

多様化する社会の中で、大学がいかなる組織文化を生み出していけるか、いかなる役割を担えるのか、といった大学の未来についても多くの示唆をいただけるご講演です。

一緒に、ダイバーシティと大学の未来について考えてみませんか？

日時

2019年2月20日(水)

10:30-12:30

定員 先着100名

対象 筑波大学の教職員、研究員、院生、学類生、つくば女性研究者支援協議会関係者、関連機関の方

会場 筑波大学大学会館特別会議室
(茨城県つくば市天王台1-1-1)

お問い合わせ・お申し込みは

ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター ダイバーシティ担当

URL <https://diversity.tsukuba.ac.jp/> MAIL diversity@un.tsukuba.ac.jp

TEL : 029-853-6418

講師：熊谷晋一郎 先生

(東京大学 先端科学技術研究センター准教授
東京大学バリアフリー支援室長)



1977年山口県生まれ。新生児仮死の後遺症で、脳性まひに。以後車いすでの生活となる。東京大学医学部医学科卒業後、千葉西病院小児科、埼玉医科大学小児心臓科での勤務、東京大学大学院医学系研究科博士課程での研究生活を経て、現職。主な著作に、『リハビリの夜』(医学書院、2009年)、共著『発達障害当事者研究』(医学書院、2008年)、共著『つながりの作法』(NHK出版、2010年)、共著『痛みの哲学』(青土社、2013年)、編著『みんなの当事者研究』(金剛出版、2017年)、編著『当事者研究と専門知』(金剛出版、2018年)など。

お申込みはこちらから！

